

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 種山祐介

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受けて2月26日から3月10日の期間にオーストラリアへ薬学語学研修に行ってきました。現地の学校に通い、英語・薬学・オーストラリアの文化を学びました。英語力を向上させることや現地の人と積極的にコミュニケーションをとっていくことを目標として、様々な経験をさせてもらいました。

2. 語学学校

平日毎日キングスクリフにあるTAFEという学校で薬学や英語の授業を受けました。TAFEは幅広い年代の人々が専門分野を学ぶ場所で、英語の教室以外にアボリジニーの文化を学ぶ教室や、整体マッサージを学ぶ教室などがありました。どの授業も基本は全員参加型の授業で日本との違いを感じました。英語の授業では日常会話で聞いた単語の確認、波の危険性や遊泳区間を示す旗について、文章を読んだ上で意見の発表などを行い、薬学の授業ではオーストラリアの薬剤師の業務や薬の分類日本との違いなどを学びました。また学外での学習として薬局見学やアボリジニーが用いる植物の見学や小学校での日本文化の紹介なども経験しました。



写真1. TAFE (Technical and Further Education)



写真2. 薬局

3. 観光、生活

オーストラリアは日中暑すぎるので、日の出から間もない早朝から活動することが一般的であり、早寝早起きの人が多く、5時起きでサーフィンをしてそれから仕事に行くということがあるほどです。僕も9時過ぎに寝て5時前後に起きる生活をしていました。また紫外線が強く、どこへ行くにも日焼け止めが必要でした。ホームステイ中の食事は肉類が多くご飯やパンなどの主食がないことが多かったですが、その分肉類を多く食べられたので心地よかったです。また化学調味料を避け天然素材にこだわった健康志向の食事が多かったです。土日は学校が休みだったので、オーストラリア観光を楽しみました。バイロンベイというオーストラリア大陸最東端の灯台に行ったり、カランビンワイルドライフサンクチュアリーという動物園へ行ったりしました。また平日は授業終了後にサーフィン、パドルボードをしたりライブバーやホームパーティーに行ったりしました。



写真3. バイロンベイ

4. 最後に

2週間があつという間に感じるほど楽しくいろんな体験ができました。留学中は簡単な日常会話は問題なかったですが、もう少し勉強していたらもっといろんなことが話せるのにな、と思うことが何度かあり、こう思えたことは、英語を自発的に勉強する際のモチベーションとなり自分をより成長させると思います。また、日本人との価値観の違いなどは、知っているのと実際に体験して感じるのでは理解の度合いが段違いで、その違いを感じることができたので視野が広がったと感じました。留学に行ったことで人として成長できたと思います。